

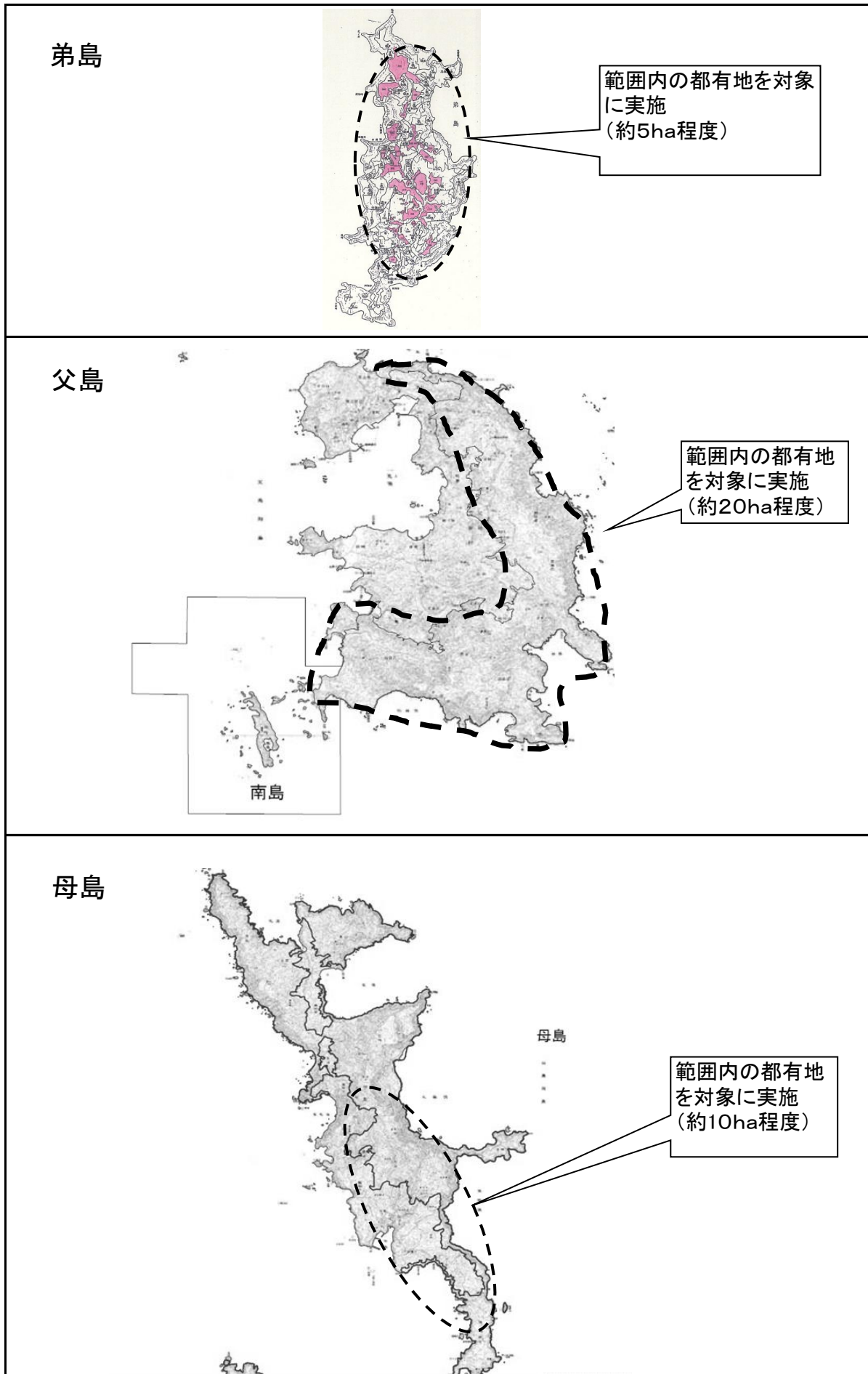
農山漁村地域整備計画

計画の名称 小笠原諸島における外来樹木排除による野生生物共生林整備計画（その2）								
計画策定主体 東京都								
対象市町村 小笠原村								
計画の期間 平成28年度～平成32年度（5年間）								
計画の目標 世界遺産となった小笠原諸島独自の島しょ生態系を脅かす、アカギやモクマオウ、ギンネム、キバンジロウ等の侵略的外来樹木を排除し、小笠原固有の野生生物と共生できる森林・生態系の回復を目指す。								
定量的指標 対象林において外来樹木が優占する樹林を減らして在来林化することにより、アカガシラカラスバトやオガサワラオオコウモリなど固有生物の生息数の安定・増加につながる。 アカガシラカラスバトの推定生息数 220～450羽（平成25年）を維持・増加。都有地での外来樹木駆除事業面積35ha。								
対象事業								
事業名	事業型	事業箇所名 (地区名)	事業実施主体	関係市町村	工期	計画期間内の総事業費	費用対効果	備考
森林整備事業	共生環境整備事業	小笠原諸島	東京都	小笠原村	H28～H32	100,000	—	
合計 (全体事業費)						100,000		

※対象事業を示した図面を添付

農山漁村地域整備計画 位置図

計画名： 小笠原諸島における外来樹木排除による野生生物共生林整備計画(その2)



農山漁村地域整備計画事前評価調書

計画の名称	小笠原諸島における外来樹木排除による野生生物共生林整備計画(その2)		
項目	評価細目	評価	説明欄
目標の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題に適切に対応する目標となっているか。 ・関連する計画との整合性が図られているか。 <p>(計画の目標) 世界遺産となった小笠原諸島独自の島しょ生態系を脅かす、アカギやモクマオウ、ギンネム、キバンジロウ等の侵略的外来樹木を排除し、小笠原固有の野生生物と共生できる森林・生態系の回復を目指す。</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・世界自然遺産に登録された小笠原諸島の自然環境を保全し、健全な状態で後世に引き継いでいくためには、外来種対策が最重要課題である。 ・世界自然遺産小笠原諸島管理計画(環境省、林野庁、文化庁、東京都、小笠原村)においても、生態系の保全、外来植物駆除の推進が規定されており、整合が図られている。
整備計画の効果・効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・整備計画の目標と定量的指標は適切に設定されているか。 ・事後評価ができる適切な指標となっているか。 <p>(定量的指標) 対象林における外来樹木の優占する樹林を在来林化を進める(事業面積35ha)</p> <p>アカガシラカラスバト(推定 220~450羽)やオガサワラオオコウモリなどの個体数の維持増加</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・野生生物と共生できる森林・生態系の回復のための事業であることから、希少野生生物確認数の増加は適切な指標である。 ・環境省や林野庁によってもモニタリング調査が行われており、生息確認数の情報把握が可能であり、事後評価もできる。
整備計画の実現可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・整備計画の内容は事業実施可能性が十分検討されているか。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・小笠原諸島の外来樹木駆除は、林野庁において、国有林では既に実施されており、手法を参考にして実施が可能である。 ・事業対象箇所は都有地であり、財産権利上の問題も生じず、円滑な実施が可能である。
判定	適正		